

感染症情報 7月22日～28日

府下小児科197医療機関(堺市19)から

①手足口病	892例(堺市	45例)
②感染性胃腸炎	821例(堺市	36例)
③ヘルパンギーナ	380例(堺市	27例)
④溶連菌感染症	348例(堺市	37例)
⑤伝染性紅斑	210例(堺市	22例)

府下インフルエンザ定点301医療機関(堺市29)から

インフルエンザ	16例(堺市	1例)
---------	--------	-----

感染症報告数は前週比6.5%減の3,111件であった。

報告数の第1位は手足口病で、以下感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ、溶連菌感染症、伝染性紅斑の順であった。

手足口病は府下で前週と比較して25%減、堺市で15%減であった。府下の定点当たりの報告数は6.01→4.53になった。感染性胃腸炎は府下で10%増、堺市では23%減であった。ヘルパンギーナは府下で2%増、堺市で26例→27例であった。溶連菌感染症は府下で2%減、堺市で45例→37例であった。伝染性紅斑は府下で18%減、堺市で34例→22例であった。なお、ランク外で第6位のRSウイルス感染症が府下で4週連続増加しており、150例は7%増であった。

麻疹が府下で2例(堺市はなし)の報告があり、年始からの累計が147例となった。風疹も府下で2例(堺市はなし)の報告があり、年始からの累計が122例になった。